



2024年 1月 ふじきと

本年もよろしくお祈いします

遅くなりましたが、あけましておめでとうございます。いよいよ3学期が始まりました。3学期の始業式では冬休み中に届いた大谷翔平選手からの贈り物であるグローブについて紹介しました。それに伴いNHKの取材も入りました。大谷選手は二刀流で素晴らしい成績を収めていることで高い評価を受けていますが、普段のふるまいも評価され、尊敬されています。私たちもこのグローブにあやかって本年度大活躍できればと思います。

あけまして
おめでとう!



こころの劇場

1月17日(水)に6年生が和歌山城ホールで「劇団四季ミュージカル ジョン万次郎の夢」を鑑賞しました。迫力ある演技に圧倒されました。2時間があっという間でした。その後、子ども科学館でプラネタリウムを鑑賞し、館内の展示物に触れました。科学の不思議がいっぱいでした。和歌山駅から一般の路線バスで移動しました。コロナの頃ではなかなか難しかったことができるようになったんだなあ、と感じました。

一方鑑賞時には基本マスク着用ということで、まだまだコロナがなくなったわけではないんだということも感じました。



万葉集

毎月玄関の黒板掲示を考えています。今年も「金子みすゞ」の詩を書かせていただくことが多かったのですが、1月は万葉集から取り上げました。冬の詩を探していたら和歌山市の情景を歌ったものを見つけたからです。

若の浦に 潮満ちくれば瀉をなみ 葦辺をさして 鶴鳴き渡る

山部赤人

山部赤人と言えば百人一首の「田子の浦・・・」でも知られる奈良時代を代表する歌人です。今放送されているNHKの大河ドラマ「光る君へ」の紫式部よりまだ前の時代となります。

歌の意味は「若の浦に潮が満ちてくると干瀉がなくなるので、葦の生えている岸边に向かって鶴が鳴きながらわたっていくことよ」となります。

若の浦は今の和歌浦。和歌浦には片男波海水浴場がありますが、その片男波はこの歌の「瀉をなみ」からとったものだと言われています。

その光景が浮かんできますし、風情も感じられますが、正直なところ私にはそれが歌としてどんなに素晴らしいかといったところまではわかりません。ただ、1000年以上前にこの地を訪れた歌人が残した歌だと思ふとなんだかうれしいような懐かしいような（千数百年前には生きてはいませんが）なんと表現していいかわからない感慨深さに浸ってしまうのですが、皆様はいかがでしょう。

